

評価実施年度	令和 5 年度	学校名	大分県立 高田 高等学校	
学校教育目標	「気力・気節・気尚」の“三気の校訓”のもと、未来に担い手となるために、新たな価値を創造し、郷土愛・人間愛にあふれた逞しい人間を育成する。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	・極めて良い。 ・「三気の校訓」(学校教育目標「気力・気節・気尚」)に基づき、明確な重点目標が示されてる。 ・校長は職員に対して学校経営の方向性や重点を伝え、職員の意見に耳を傾けつつ、着実に教育活動を展開している。 ・校長のリーダーシップの下、各教職員が信頼関係を持って教育活動を行っている。	・「三気の校訓」(気力・気節・気尚)に基づいた学校教育目標の実現に向けて、教育活動への組織的な取組を推進する。
	P D C A サイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどP D C A サイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	・極めて良い。 ・各種評価を通じてPDCAサイクルは構築されている。 ・指導教諭を核とした授業改善の取組が年間を通じて実施され、探究的な学習を通じた学習意欲と学力向上が目指されている。 ・予期しない課題や保護者対応について、迅速な判断、組織的対応がなされ、校長が最終的に責任を持つ体制ができています。	・分掌主任を中心に取組指標や達成指標による評価検証を定期的に行い、重点目標の達成を目指す。 ・指導教諭を核とした授業改善の取組を継続・発展させていくと共に、より深い探究的な学びを目指すことで、生徒の学力向上を図る。
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	・極めて良い。 ・学校ホームページやInstagram、広報誌等を通じて、生徒や保護者に対して積極的に情報発信がなされている。 ・地域の資源や人材の積極的な活用、地域内外の関係機関との連携等による社会との連携は大いに評価できる。 ・「青鷹成長プロジェクト」(地域との協働による高校魅力化推進事業)によって、生徒が主体的に地域とつながっている。	・学校ホームページやInstagram、学校広報紙『青鷹の夢』、中学生とその保護者向け広報紙『青鷹の夢jr.』により、本校生と保護者、そして中学校や地域への継続的な情報発信を行う。 ・総合的な探究の時間における学びとして行う「地域学Ⅰ」(1年次)、「地域学Ⅱ」(2年次)の取組において、地域や地元企業等との連携をさらに深めていく。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	・良い。 ・教職員1人1人が生徒とのコミュニケーションを通じて信頼関係を築き、細かく丁寧に指導している様子が伺われる。 ・教職員が高い意識を持って授業改善の取組が年間通じて行われていることにより、生徒の学力向上が数値として見られる。 ・授業におけるICTの活用が進んでおり、探究的な学びが取り入れられ、生徒も主体的に取り組んでいる。 ・英語と数学で習熟度に応じた授業が行われ、生徒の学習に対する満足度も高い。 ・家庭学習は多くの生徒が宿題を行うことに限定されており、学習習慣の定着に向けて、さらなる取組を期待する。	・授業改善の推進と共に、個人面談や進路研究、学びに関する講演会等の取組を進めることで学習意欲の向上を図り、学習習慣の定着及び学力向上を目指す。 ・授業におけるICTの活用について、教員対象の校内研修・授業の公開等を行うことによって、教員個々のスキルを高め、学校として授業改善を推進する。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	・極めて良い。 ・一市一校で中学校との連携がしっかり行われている。 ・いじめの認知件数や不登校の人数も少ない。 ・人間関係づくりプログラム(「青鷹タイム」)や面談相談体制等、「誰1人取り残さない」という方針のもと、安全・安心な教育環境が構築されている。	・クラス担任や副担任による定期的な個人面談、いじめアンケート実施等により、生徒個々の状況を把握すると共に、必要に応じて教育相談担当やスクールカウンセラーによる面談などを行い、生徒の困りの早期発見と解消に努める。 ・人間関係づくりプログラムや人権HRA、人権に関する講演会の取組を通じて、自己理解や他者理解の深化を図る。
	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	・極めて良い。 ・教職員による交通安全指導や交通安全委員会によるヘルメット着用の呼びかけが行われている。 ・衛生委員会による学校施設等の安全点検が毎月行われ、環境整備が進んでいる。 ・1回目の学校訪問時に指摘した体育館のシロアリ対策・老朽化した床と壁の改修は適切な対応がなされている。	・交通マナーや自転車用ヘルメット着用の徹底について、命を守るための取組であるとの認識を強く持たせるために、一年を通じての交通安全指導や啓発活動を行う。 ・学校施設の安全点検を継続的に行い、生徒が安全・安心な学校生活を送ることができるよう努める。
信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しが行われているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。	・ICT活用による職員朝礼廃止、部活動の精選、ノ一残業デー、学校閉庁日の設定、夜間の電話対応自動化等、働き方改革が進められている。 ・教職員に年休取得が促されている。 ・ストレスチェックの活用をし、教職員のストレスによる健康問題発生の可能性を把握し、上司や同僚が支援を行っている。 ・教職員の心理的安全性の高い職場であると同われる。 ・衛生委員会の機能を充実させ、職場環境の改善に努めている。	・欠席連絡へのaotakaメール(39メール)や採点支援システムの活用、部活動顧問の複数配置等、業務低減への取組を進める。 ・職員会議等の会議内容の精選、職員連絡事項のwebによる情報共有などにより、会議時間の縮減を図る。
	学校課題の解決に向けた取組等	○学力の向上 ○定員確保	・進路目標に応じた4つのコース設置は、教室の確保、生徒の学力差等の課題があるが、現在は効果的な運営ができています。 ・公設民営塾「うみね」の運営、4つのコースの設置等、学校の魅力を高めて、市内外の中学校への広報活動を継続し、定員確保に努めていただきたい。	・入学定員の確保に向けて、本校の魅力について地区及び周辺中学校の中学生と保護者、中学校教員への情報発信を継続的に行う。 ・オープンスクールや中学校を訪問しての高校説明会、中高生のための「未来塾講演会」等により、中学生が本校と触れ合う機会を増やす取組を行う。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・一市一校という多様な生徒がいる中で、就職から国公立大学まで進路希望に応じた4つのコースを設置して、生徒のニーズに対応した細やかな指導がなされている。 ・一般的に、校長のリーダーシップや明確な学校経営ビジョン、適切なマネジメントの下、教職員が意欲的に教育活動に取り組み、成果があげられており、地元の期待にしっかりと応えている。 ・多様な生徒に対してメッセージの伝え方等の工夫が必要だと思われるが、引き続き生徒1人1人に寄り添った授業・進路指導・人間力の向上に努めていただきたい。 ・今後も市内唯一の高校として、地域と連携しつつ、定員確保に努めていただきたい。 			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価を通して、学校課題への気づきがあり、それが取組の見直しや改善へとつながった。第三者評価の果たす役割は大であった。 ・全体的には、職員の熱心な取組、保護者や地域からの温かい支援を受け、学校教育目標の重点を高いレベルで達成することができた。心から感謝したい。 ・細部については、改善点もあることから、引き続き、見直し→改善を進めていきたい。 ・次年度はスクール・ポリシーに沿って、①授業改善の充実により多様な進路希望を実現する学校、②社会に開かれ、地域と連携し、地域に貢献できる学校、③温かい思いやりの気持ちにあふれた安全・安心な学校、の実現を目指し、尚一層の取組を進めていきたい。 			